

## くれあ通信 最終号

先日、朝霞市商工会で、朝霞の健康増進施設である「わくわくどーむ」のプールを使った事業がありました。今回の事業は、たまたま自分が提出した企画が通ってしまったということもあり、僣越ながら司会という大役を仰せつかりました。諸準備には同じ委員会の方々の厚いご協力のもと着々と進められ、いささか緊張した中当日を迎えました。平日の夕方ということでしたが、皆様時間の都合を何とかつけて集まってくださき、結果、楽しい事業を開催することができました。わくわくどーむ様でも前例のないこととことで、多大なるお気遣いとお支援により、みんなに笑いと素敵な時間が提供できました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、これまで2年にわたり発行してまいりました「くれあ通信」ですが、本号をもちましていったん終了する運びとなりました。皆様との接点の一つの在り方として手書きから始めたこの新聞ですが、先の商工会の例にあるように、今や多くの方と接点を持つことができます。十分とは言えないまでも地元朝霞市の紹介もでき感無量でした。皆様、これまで本当にどうもありがとうございました。またお逢いできる時を。



## 朝霞紹介



これまで2年にわたって、色々なかたの執筆のもと朝霞という街を紹介して参りました。朝霞市は、隣の和光市や志木市、新座市と比べると、何か少し印象が薄い感があるのは否めなかったのですが、これまであった多くの朝霞人は本当にみなさん素敵な人ばかり。そして、地元朝霞市を今一度練り歩いてみてわかったのですが、とてもとても朝霞は広いです。年々きれいになっている黒目川、その黒目川沿いに咲く感嘆たる桜並木。子育てへの素晴らしい環境を常に提供している多くの児童館、人生と同じく緩やか

な坂で編まれた台地と低地。電車も複数乗り入れ、それらの駅もこの10年で全く趣が変わり進化しています。そんな朝霞はこれからも魅力いっぱい輝いていくことでしょう。まだこの地に踏み入れたことのない人は是非一度訪れてみてください。本当に素敵でいいところですよ。



## 映画紹介

### 『大人は判ってくれない』

最後の映画紹介はフランス・ヌーヴェルヴァーグにおける巨匠、フランソワ・トリュフォーの長編処女作『大人は判ってくれない』をとりあげます。この映画には小難しさなどは一切なく、純粋な子供の映画です。そのラストシーンは大変有名なもので、ジャン＝ピエール・レオ演じるアントワーヌ・ドワネルのあの表情、表現、表象は観たものを一瞬にとりこにします。この映画には知る人ぞ知る形で様々な過去の映画の断片が散りばめられてお

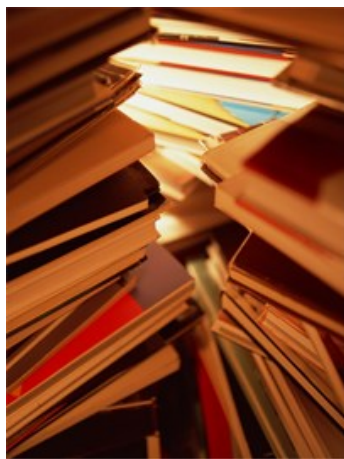
り、それもまた一興です。ヌーヴェルヴァーグはいずれの作品も過去の映画作品を意識した創りとなっており、そうした過去への感謝と尊敬をこめつつ、新しきものを、時には謙虚に、時には大胆に模索していったのです。その精神は、今なお継承されています。

大人は判ってくれない  
Les quatre cents coups  
1959

Director: François Truffaut  
Writer: François Truffaut  
Marcel Moussy  
Cast: Jean-Pierre Léaud



## 書籍紹介



### 『超電導ナイトクラブ』 村上 龍

花の銀座の路地裏でボディビルダーのママが経営する小粋な「超電導ナイトクラブ」に集まるのはニュー・セラミックスや光ファイバー通信や生物工学の技術者たち、ハイテクなスノッブばかり。常識もモラルも軽くのりこえた彼らが夜毎くりひろげる支離滅裂な餐宴一。

村上龍らしい、退廃的で、常識から少し外れていて、グロテスクさに気分が悪くなったりしながら、でも結局おもしろい、という読後感の作品です。雑

誌連載されたものを単行本化したものようですが、読んでいて根を詰めて書いたような必死さは感じられず、だからこそ読み流しても違和感を感じないような気楽さがあります。何故か数年に一度読みたくなる、言葉に表しづらい魅力がそこにはあります。

村上龍作品が好きな人は、通底するユーモアの感覚を楽しんでお読みいただけたらと思いますが、小説に少しでも高潔で真摯な姿勢を求める人は、もしからしたら怒ってしまうかも知れませんのでご注意ください。

# Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ